

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	広島大学	整理番号	S03
プログラム名称	たおやかで平和な共生社会創生プログラム		
プログラム責任者	宮谷 真人	プログラムコーディネーター	藤原 章正

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、オンキャンパス教育とオンサイト教育を駆使して、学生をグローバルに活躍できるイノベーターへと導く一貫した学位プログラムが構築され、3段階の **QE** による学位の質保証を含め体系的な教育研究指導が行われていると評価できる。解決困難な課題を抱える地域社会をより望ましい方向へ導く解決策を提案し実現していくリーダーの養成が図られており、実践性を追い求めるプログラムの一つの型として、着実に進展し、完成に近づいていると評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、学生中心の柔軟な指導体制、研究分野の枠を超えた協働、社会的要請への対応等を通して、学生の独創力と汎用力の向上が図られていると評価できる。アンケート調査結果においても、特にオンサイト教育による汎用力の向上についての学生の高い自己評価が確認できる。また、自主性・実行力・多角的思考力・創造力・専門性の5つの学修領域において、学生の自己評価を基に **QE** で確認を行い、それぞれの達成度が測定されている。修了者は、ほぼ同数の割合で、アカデミアとそれ以外の領域に就職しており、特に後者では、グローバルなキャリア展開を目指す修了者が目立つ。

「HIRAKU ポートフォリオ」など広島大学独自のシステムを活用して、修了者のキャリア展開の動向を把握するなど、フォローアップを行っていることも評価できる。

事業の定着・発展については、学長のリーダーシップの下、「卓越大学院・大学院リーディングプログラム機構」が設置され、本プログラムは、複数の研究科を横断する5年一貫博士課程教育プログラムとして、支援期間内に創出した教育プログラムの内実が継承されるとともに、専任教員の確保、プログラム担当教員の増員など、プログラムの拡充を図る改革を行い継続される点は評価できる。外部機関との連携についても、令和元(2019)年5月時点で締結されていた11件の協力協定が支援期間終了後も継続される予定である。また、平成29(2017)年度には本プログラムが中心となって「広島大学 Future Earth・SDGs ネットワーク拠点」を全学組織として立ち上げ、この拠点をベースとして各界の連携先機関等との関係の維持が図られている。一方で、学生への経済的支援に関しては、奨励金や授業料免除及びTA・RAの雇用など、従来の方式を踏襲した予算が確保されているが、奨励金が大幅に減額となることから、今後は更なる学生の確保策の検討が望まれる。